へ13
3749
25

門へ13
號3749

あつ売草
うぶ〜めの〜法
宋水著

○舎衛國の住人鳩留長者の一子須菩提禪室に
いとなく
祇園精舎に
十大弟子のうちにとる

六齋日

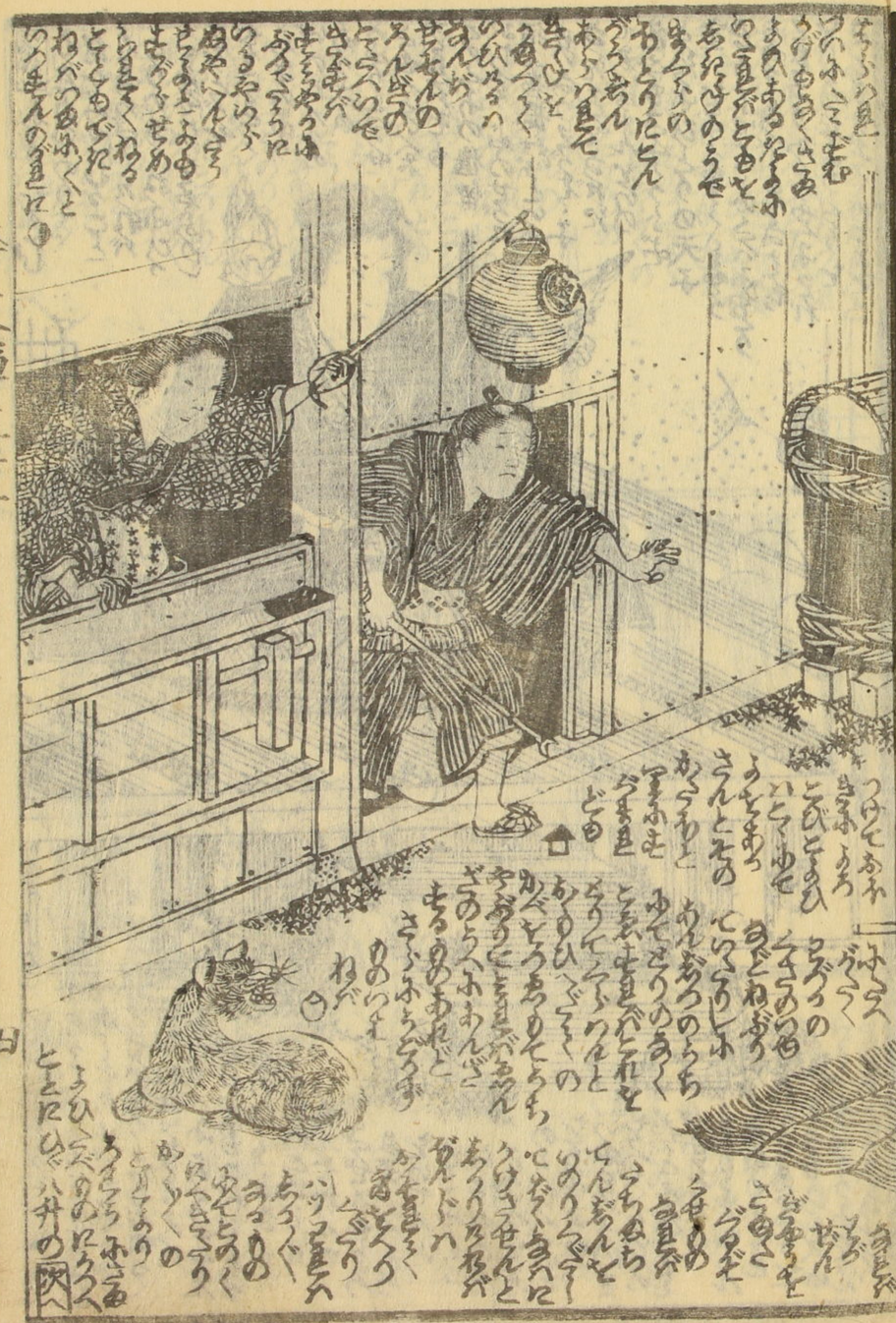
毎月八日十四日
十五日廿三日廿九日
廿日 小の月の廿八日を
こゝ七六月とする

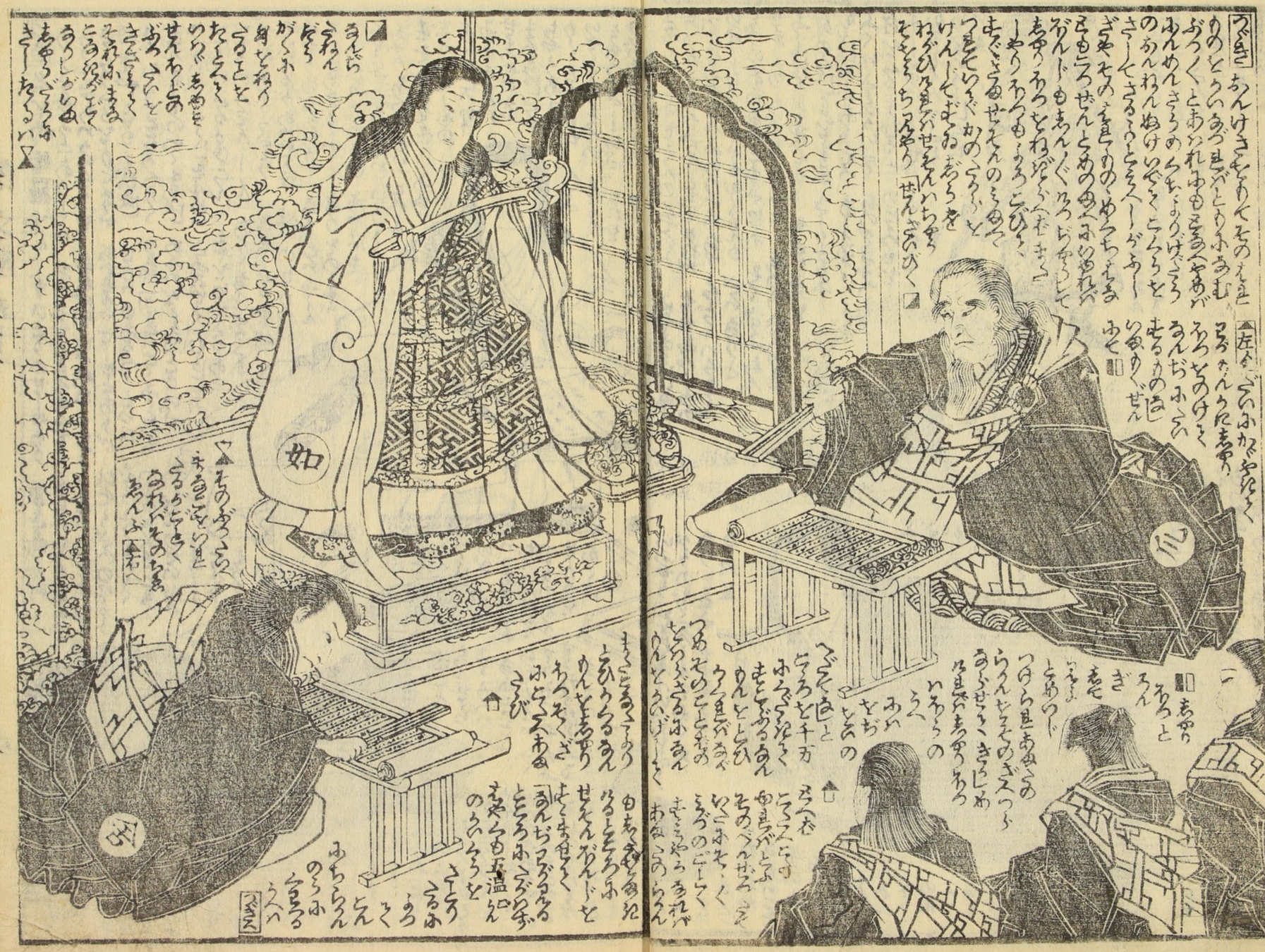
十齋日

朔日八日十四日
十五日十八日廿三日
廿四日廿八日廿九日
三十日

此日ハ放生ときれば其の
功德勝れりといへども
作法を知ざれば入て
つゝしむべき年文を
よのこゝろ

炎匿龍王童女
けいふくの國夫人
身を現じて祇園精舎の
雖ふ障碍をなすも
此時跋難陀件と
いふ牛ふ化して
炎匿竜王
目蓮
角ふ
害せんと
命婦天上主
舎利弗女
羅漢
参詣の諸人
光明大臣




如
如

解放
生會
魚鳥會

万亭應賀作

歌川國貞畫

倭文庫出世双六　應賀作　豊國画

春の遊　将棋双六　同作　貞房画

男女振合　役替双六　同作　同画

武家奉公出世双六　同作　豊國画

奥奉公出世双六　同作　同画

子寶延命袋　同作　同画　紅摺全一冊

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半つゞき

大寶御江戸繪圖　極上摺奉書六枚半續

倭文庫五拾編

万亭應賀作

歌川國貞画

下

住よしの浦にみる色つきそめ初ば
かりなる人の宮れぬるこのゝ

石尾筆

るゝ河さの鶯ゝ住よし方

きゝ美めいのゝことゝもゝ
帰るゝとの
住吉ゝ

牛のたゝぶんのうゝ

芝ゝと市ゝ仏ゝ
ゆこゝゝゝゝ
たゝゝゝゝ

下ノ句 あと三人へいれとこれふらつん
しあるやうや
されば千人
あるりある
おでーのうち
ちいりぐひを
めてさぐあさ
まへにあにこ今
だらしんのあれ
いぐあるうんイヤ
ろうのきにあん
こ四ろねてれんらん
ればうさのれまもの
あるのけをるじて名を
うまりとあるうあさを
ぢくの才一とせんさてるく
らぐいいとくあのぶとあろ
れたとうれきうこのいろあれば
多そきをい色めてこうぎあう才一と
きぐあれあれぢらぐぐうめいトてもおむん
あ水をのぶもうこもうとあれいそのぐくあ
らぐぐいあめにもそまもせいまばせそんさゆをあ
めてふきうさまそ水をそれしスこれふこうをみもつ
れとあまばいらくあどあうきそこれのまね 天上ようぐ
ばんまもふろうぐして水をりのことあくうぶ
されいれーうあさけあんぢひどろあう こんろやときくさ多くどその

つゞき
かにけうく
ふふうりとに
くゆらそ
るまば
あまあ
ぐく
い
ぶ
ー也イザえん
ぶくいひきうちうこと
あまばらぐぐふさ多に
おまぎをしてちとと
めろとあれ
きせとやが
てろれぐ
ちくくう
ろく
きそまこ
せそんい

舌

ら

上へ

◀あやうりをあされてこぐ八十人の太才子をさぐむるれあつてまちば
あればいちあ才一
まるをりつくくを
めくれんいまル
つくう才一あうあハ
ぜろうあう才一のちい
まろかーかうハかう
きやうぐいのいち
あるつまろハてん
ゲ才いち
あるんいさゆん
才一かーかう
ちんいえん
ぎ才一を
りつとを

◀あんーゲ
いんせーゲ
いるそのくと
りをらぐぐ
きくにまぐぐのぢんまろをりつくいを
ぎあんーきくるとのりとこをまます上
のうあふこととのをらくーざるみされ
あこむもとされふたちてこちの

もろの志ゆあんこれふあふこもとうき ごふふれをまるあのるふをと
かりてとぐみうをるぬとちえる ろふ大うーゆう いぐきくうく
妄語きうの身い
ちのうろうむけの
えんのとくあく
よーくろうも
ねとうけ
りくくのの
ろるをこれるとまるるや
ろのらあの植留くあろ
いくあく
ま
よ
ぐ
ぐのせんまろのうち
ゆそけさのるとろび
をあひあるくくるとくを
かんんどそうまといちをんふ
とまり
うくまぐいろ
きるう才子をるを
ありて十大才子の
うちふ
ゆるる
とあれ
からこ
らいかんふい
まをこのろこぶ
をらんてまやり
ろうまろくるうハ
あとういちゆん「まをくこたあゆ
うあぐい「ものひとういとくふきこゆ

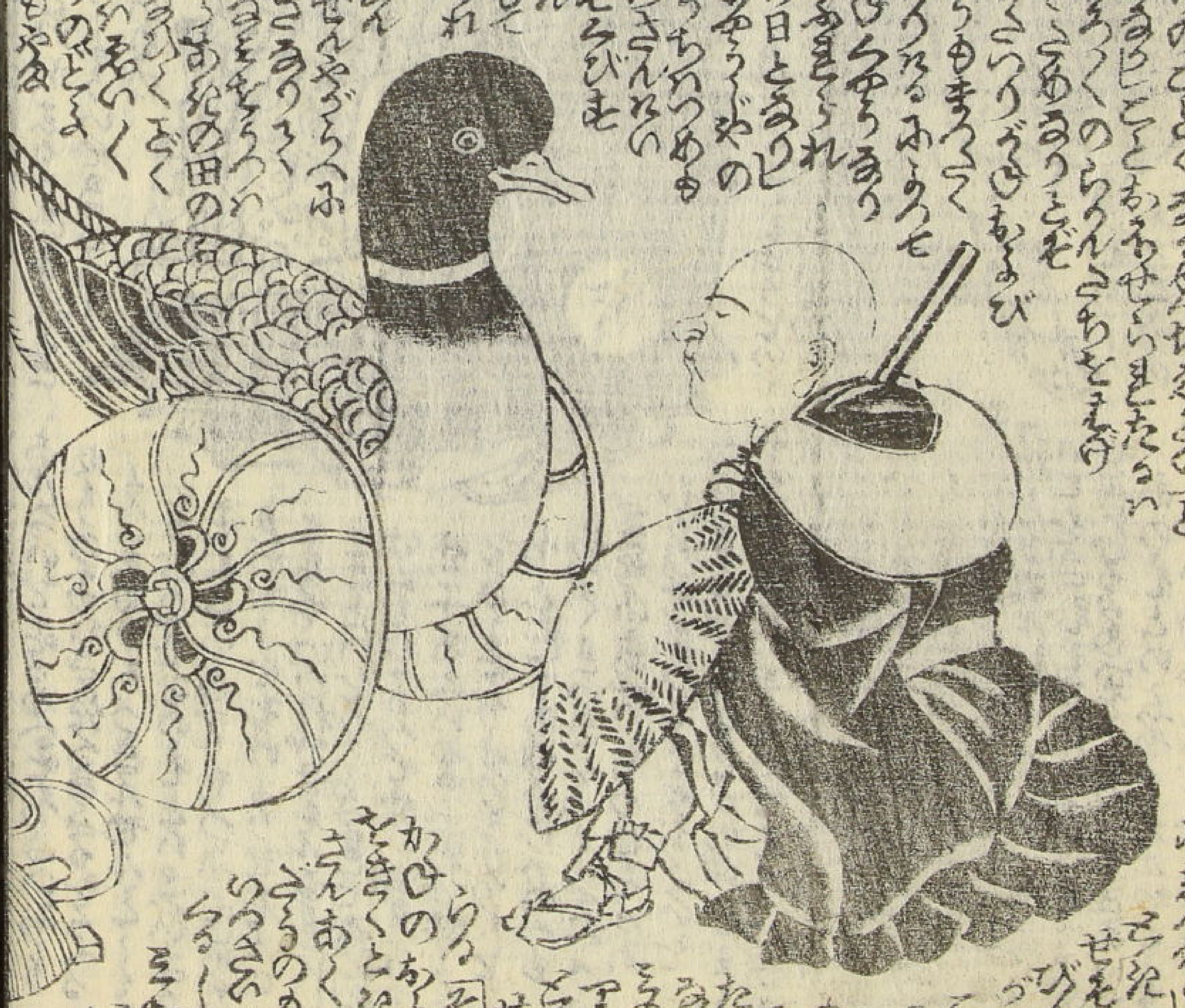
比丘尼のくあ
とお華色けき
いちをんに
せそんをまめ
「ヤ
あふこのあ
それ月をのろく
るをこれるとまるるや
ろのらあの植留くあろ
ぐのせんまろのうち
ゆそけさのるとろび
をあひあるくくるとくを
かんんどそうまといちをんふ
とまり
舌

ふとろの
らちふろいとを
うあいをれぐくあふ

あんふいをまるあをぐびあう
たろのゆいさをんくきるをろる
あろまありろつきんせんとーくく
いをむろのむたのもといさびさる
まもりぐいあやりろろふをんの
まいをーをもれろりせそんの
ままろくのろれびせそんふをしく
まとこびとろくくさまとるんぢ
けくうをろつて才一るまこ六十大
才子ふくるるるあのせろうを
ときまもりくろのめんぐくを
ろどとてまるくまのあへも
あつくまいきをつくされる
こをれふあやりろろせそんあ
むろのてさろのせんまをぐぐんを
むへくーとをもとうびかげをとそく
あとろまきこびぬまるこせそんいつふ
とろのこるふときくつけうろのあけ
ざるいろくふせそんもつれも二毒ふく
あふりのもとういいを見びせそんくうん
ふーーく「まろぐくろのふにけあのるくふあ
あのうまもあのちのさんとくいさち
されどもるんちの六十ちくあろこの
いとをきむうと且六三大むもうぐう
ぐきむうるあをとろう才さのいハ
あのまとのまあくえんのくまく
まふあうりやををくうちれんーと
うるいをれぐくあふ

「つぎに」あやうかりしそのぐらゐはおちてく
あやうくなりし智定にいりてせん
せいあやうく「いのちとらのあやうくせいを
うちさんせいしかるに八万大劫をへ
このかくしあやうくせでわしらの劫を
うけたるまでもあれどもそのうえに
つくることあらはせ「はんぎやうちにを
あやうくさずがらのいのちのうき
そしてそのいのちせんとてあるに
あやうくそうくるなきをさとるよ
トあれがまるくさくさには
天眼智定はのりて
そとのさらのをさらせんあんし
つく「き」てそとのさらのとあるに
けんまもあるはそれもまんなのとき
またそのものをそんせざる
まさぐいまんきのむれどもその
さうかのるることあるかず「ほうの
あるうちのかりくありくの声聞
八まんの大とそのうきれどもあきるる
そのつぎをなきれ...の天との
うちなるとの身をあきあれば
そのつきをすてのうく身をそんし
五道とふまんあつてのちの人間
かけとあり五百世のらちやをん
あるさらいこのさつきかとけせあ
いて五戒にとてそのつるかなく

ちあるをのせてあんちかくでうぶまが
つらぐちのごとくあるおへちあぐらい「上」
せりあすりとごとくおもせられまたるは
ごまなつくのらんらんとちそもと
まきあるうへあるつこそ
さてまあくつりがる（の）もおよび
あおらちもまくて
でありあかりたるふよのりせ
のりくうりらやうまり
とかくとえふまきられ
もそのふその日となりと
ゑへきあんまやうぶやの
大堂らのらちやめつめ
たくぬものさんれい
んあり〳〵そらびまへ
ぞろぞへさん
むかうのありて
みれたるこあれ
あるらく
ゆめくあん
たくのきせんやうらへふ
あしうきさありく
ひとのみをそうつれ
さきのやくお紀の田の
うそのゆめへくぞく
あやかしの ありく
ぶつくらのをとよ
かれありもやな



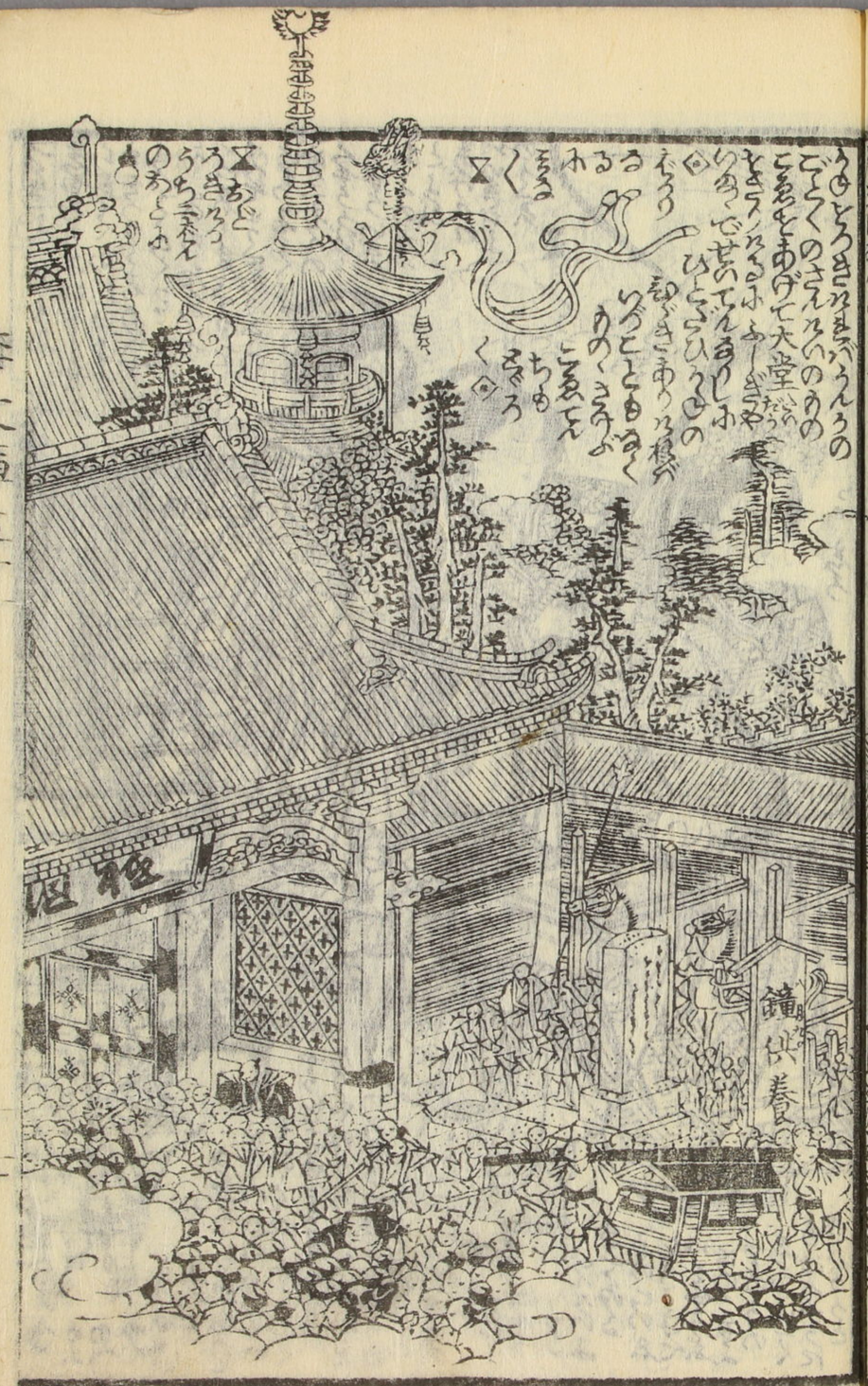
らくつでごごく
ふあり「ありし」
ごえせめん
びんづの
こゑをもてく
たへみちの
まとどうせ
らる「これ」
かびのあと
さきくとられ
さんあく
ぶるのあの
いつさいの
らるし
ぞを

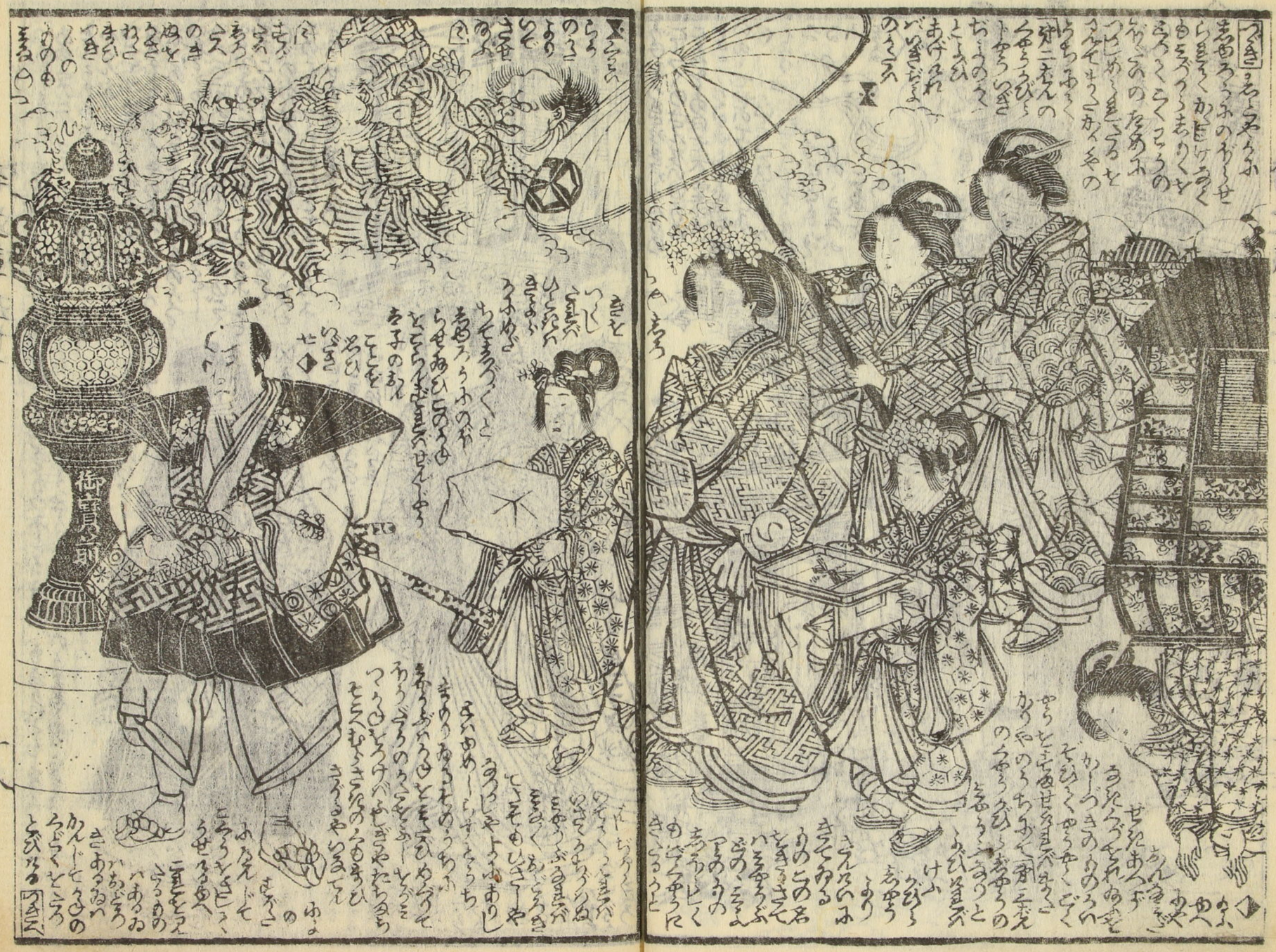
とあり〳〵ぶつのあんをあとにて
三河僧祇劫をへてはやくは慶
どうぞおもひてひくれらくのと
あり あつらせてれまんは
ゐるところにてよくかさつと
これをはあやうきのあるる
うはぶつてなのでせそんとやや
まの「かくらふとの」はあつてさえ
そのみんぶつのとあるとして
あくるず
のそんや
かろくの
あやとどらいは
あのたがやかる
てくとお紀ちあ
あるはあやめでの
でしのくちわは
その名をとりのぞて
とどのとそつてき
たさえあびどくは
あちらくむやうらの
らり〳〵きかうける
とてのところひとえは
せそんのちあをを
さるは「おいのとねがひ
れまで「あんらくの」ぎきん
はまるのとそりあまい
どもまつ〳〵のぎんの

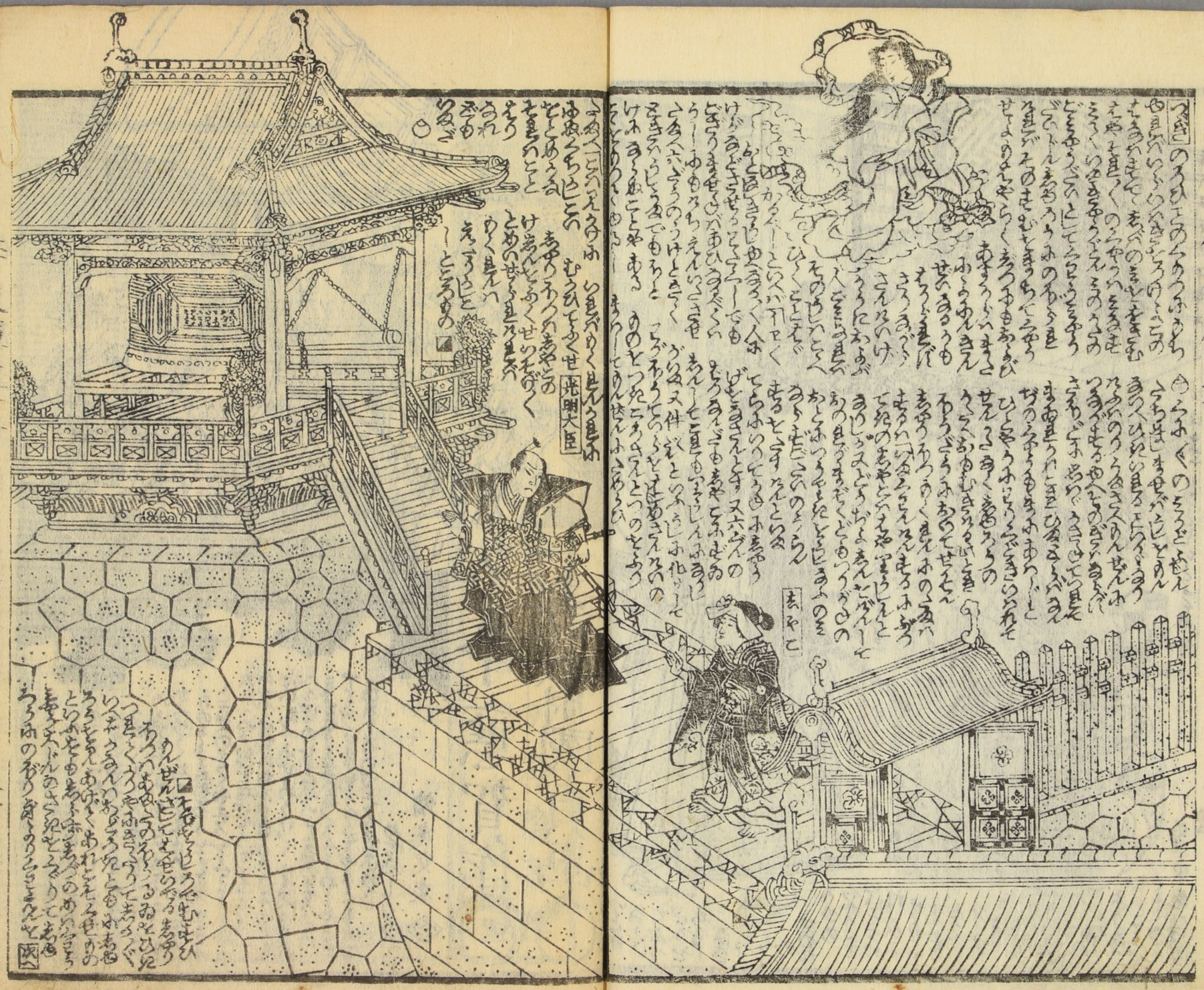
ぞりじゆ千二百
五十人の
らかんさへ
ふぬるらくび
せちんふうれ
あるざうはあら
あまあへば（の）

ふつのあんとあ
さまなんゆんの
あふら おぼき
ぶつのあんとあとにとする
あくあとさとろらくしふくす
あつさ
のあまうき
ぬくぬ
五百
あく
ごろの
あふ
ぜるの
せ

四ツの鐘のうち三ツハ畧ス






光明大臣
おやこ

文久三年癸亥春新版目録

倭文庫 五十編五十二編 万亭應賀作
五十三編五十四編 一陽齋豐國画

重井菱染別小紋 八編 大尾
爲永春水作 歌川豐國画

昔語小栗實説 二編 三編
松亭金水作 同画

花山吹百人女郎 初編 二編
柳亭種彦作 同画

沙弥ゆめの 五編 大尾
十返舍一九作 同画

常磐津懐中本 初編二編 小本 ふく吉分
三編四編 あり 極上品あり

重繪草紙本類問屋 人形町 上州屋重藏板

万亭應賀作
一壽齋國貞画

白粉の善悪を考る法

新しぬる粉に白いかきを混ぜ水ちゃぶ〜とねりて固めるべし

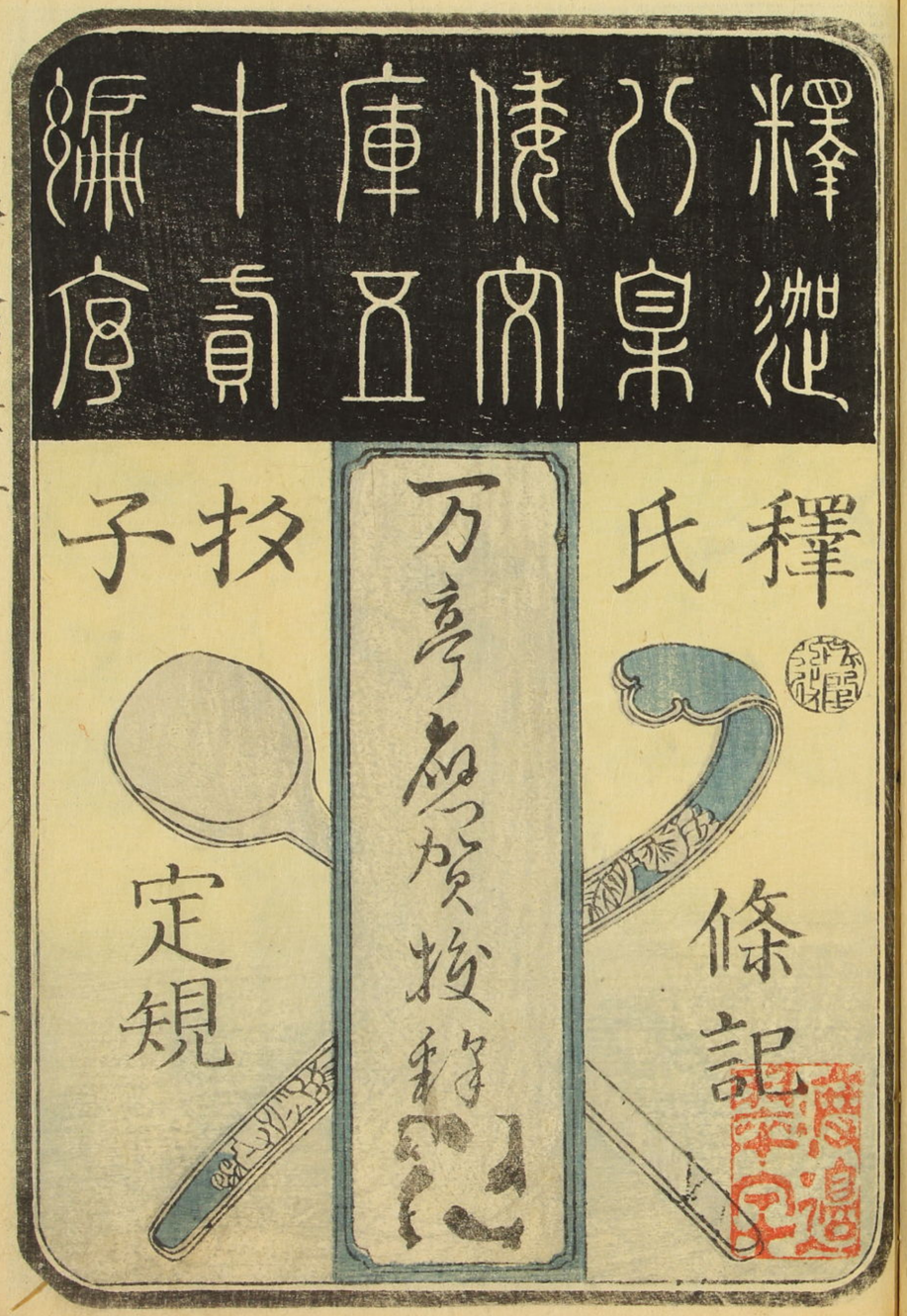
粉ろ白を火に焼て

黒くなきものゝ

鉛粉を加ふる上品あり

又焼て色の黄赤を帶るを上人

焼て色を帶ぶるぬいまを加へるを下品

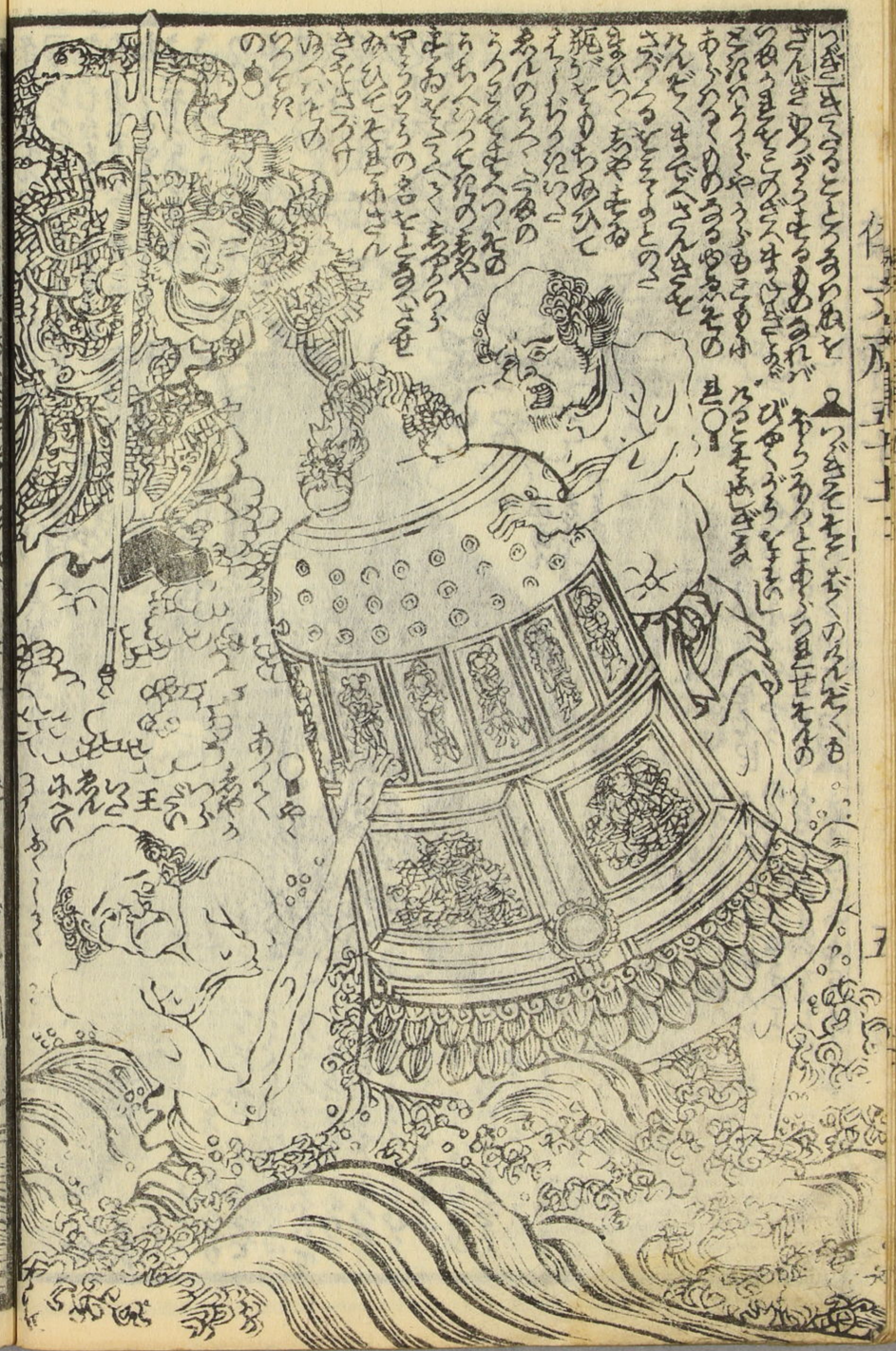


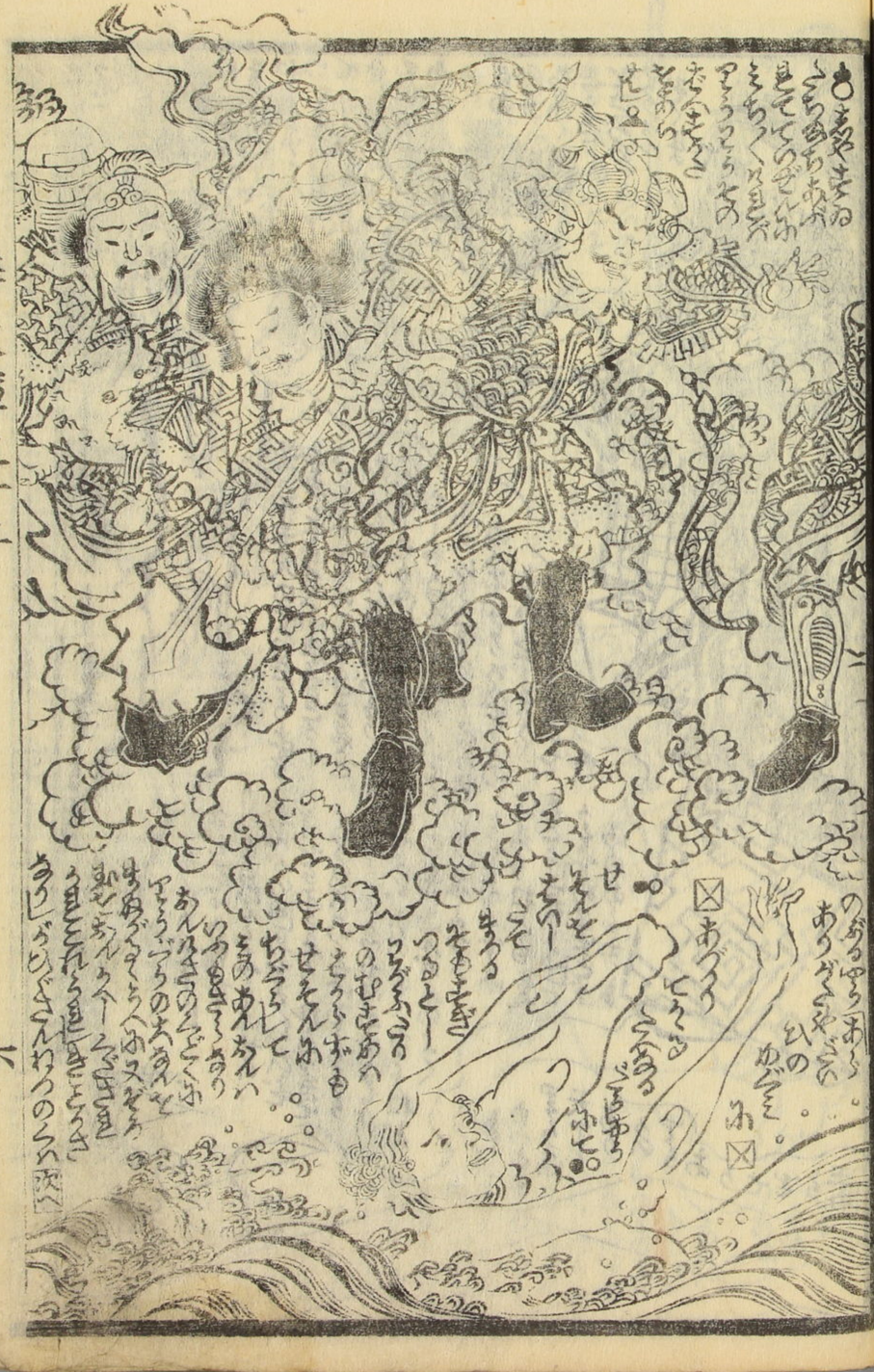
目蓮の母青提女
大惡心ふて三宝供養
の貨を吹く鳥畜類
を買求め自殺しく
肉を盛獨快樂ふ耽りて
五百僧齋を勤ずる而已
あらず反て惡僧を害
せんと計る大罪に仍く
遂ふ阿鼻地獄ふ墮る
王舍城
傳相長
者の後
家
目蓮の
母
青
提女

目蓮家を出奔して台阿羅漢と成る妻を聞傳へ其妻祇園精舎に來り凡情を述べ俗家へ連還らんを目蓮神通をもつて人間の四苦を現し愛執を絶む糸い豫め禪秘要經の依說

世尊

五十二編





金

五百の僧
左ゑり
益利
宝船

應賀作　國貞画

倭文庫公出世双六　應賀作　豊國画

春の遊　將棋双六　同　作　貞房画

男女振合　役替双六　同　作　同　画

武家奉公出世双六　同　作　豊國画

奥奉公出世双六　同　作　同　画

子寶延命袋　同　作　同　画

紅摺全一冊

皇榮御江戸繪圖

奉書四枚半つゞき

大寶御江戸繪圖

極上摺奉書六枚半續

倭文庫五捻三編

堂上例屋

下

あつ発竹

十二月晦日　さらの術

萬の邪鬼を

東南へ伸る桃の

枝をもつて

行ひて居宅の

四方地へ打込置ち

猩猩神の霊験をもつて

鬼を寄宅穢厭の術とす

上巻より

らぶりくのあとをうつあり兵者の

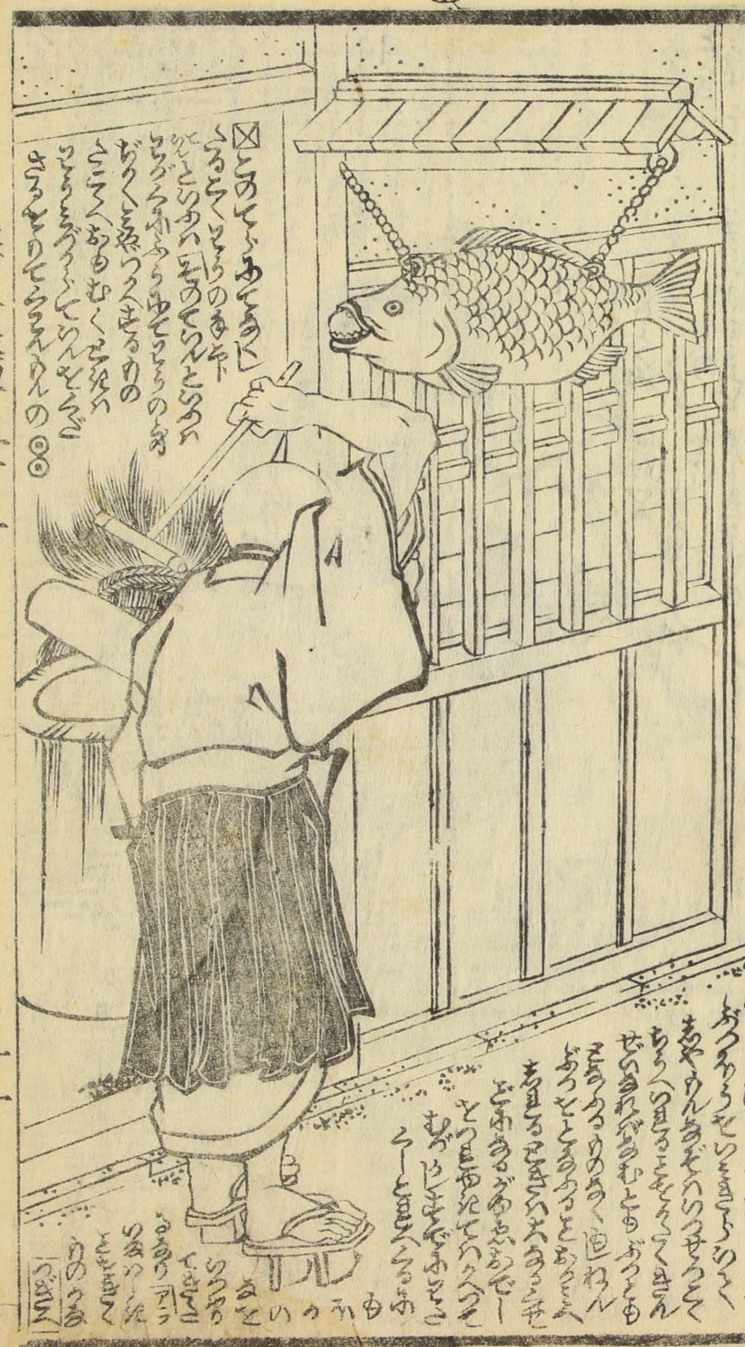
つくることをろとき[illegible]

ものとあつてきこゝろるゆかつて[illegible]

ゝとをこへもぶ〻び[illegible]

◎ぜのりをとれば[illegible]

[illegible]



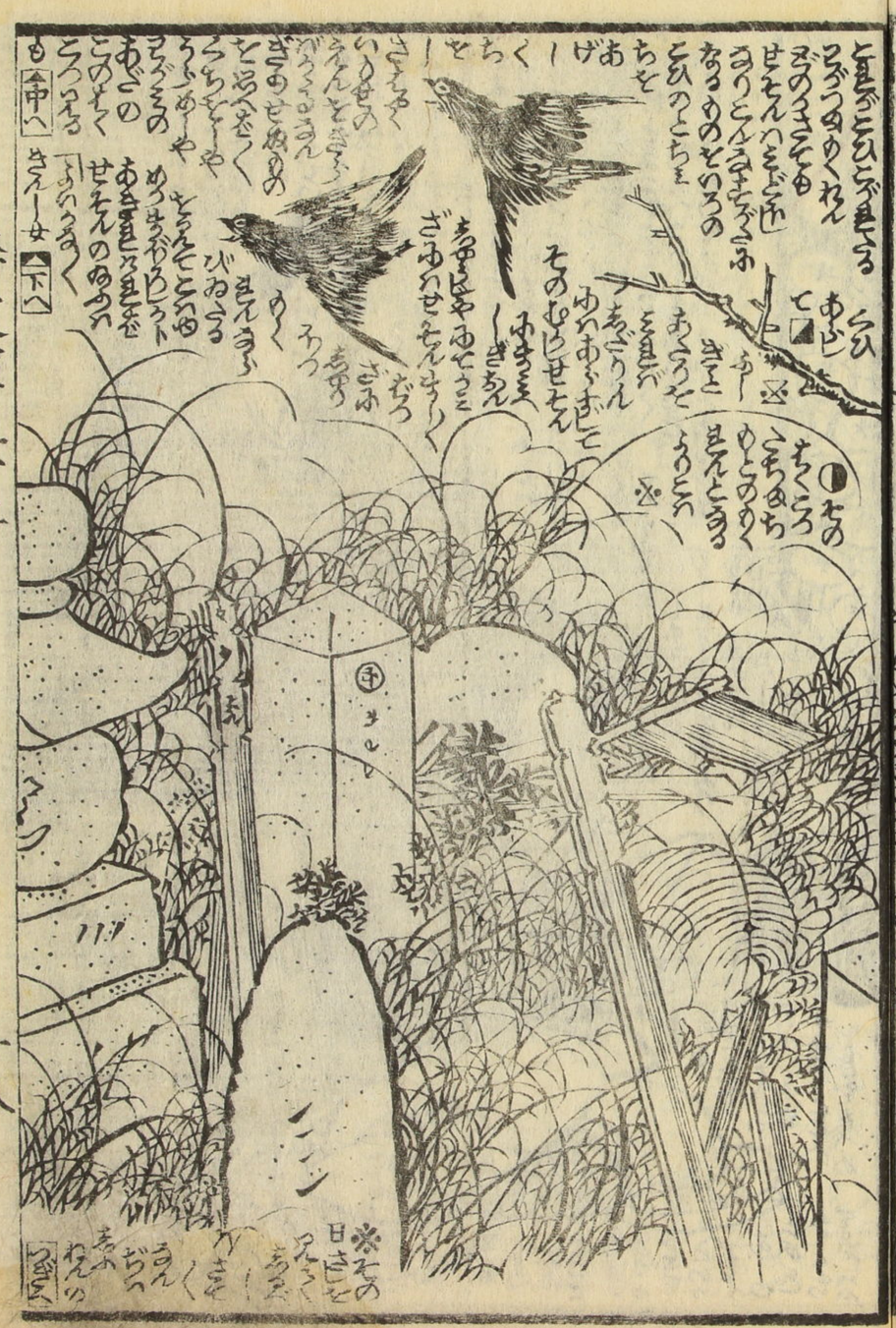
金
口

口
三

金

四
木

河豚



大

從是西十万八千
畏舍離國
月蓋長者
象飼場界

万亭應賀作

新編朝日譚 三四五編 仕出

歌川國貞画

文久三年癸亥春新版目録

倭文庫

五十編五十二編 万亭應賀作
五十三編五十四編 一陽齋豊國画

為永春水作
重井菱染別小紋 八編 歌川豊國画 大尾

柳亭種彦作
花山吹百人女郎 初編 二編 同 画

松亭金水作
昔語小栗實説 二編 三編 同 画

十返舎一九作
沙門みめぐり 五編 同 画 大尾

常磐津懐中本 初編二編 小本 三編四編 上本あり 極上本あり

重繪草紙本類問屋 人形町 上州屋重藏板

新五節句